

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和6年12月20日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670400185
法人名	社会福祉法人 明星福祉会
事業所名	南方園グループホームけやきの里
所在地	鹿児島県枕崎市まかや町679番地 (電話) 0993-76-3462
自己評価作成日	令和6年10月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和6年11月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然環境に恵まれ、四季折々の景色が楽しめるけやきの里では、1年を通して花を楽しむことができ、敷地の畑では職員と一緒に野菜を作っております。また、広い庭にはけやきの大木があり、気候の良い日は花や景色を楽しみながら木陰でお茶会をしたり、散歩をしたりとご利用者の憩いの場となっております。そして、家庭的な雰囲気を大切にする観点から、ご利用者にできる協力をもらい台所で食事を手作りしており、家庭に近い匂いや音、味などを感じることができご利用者の楽しみの一つとなっております。

その他、レクリエーションや屋外活動など日中の活動を積極的に支援しており、ご利用者が自分らしく主体的に生活できるように職員一丸となって日々の支援に取り組み、みなさん明るく穏やかな生活をさせております。

行事等に関しては、夏祭りや運動会など併設施設と合同開催していたものが感染症予防の観点から合同ですることができなくなりましたが、事業所単独での形で開催をしており、その他に季節ごとの行事や毎月のバイキング等があり年間を通して楽しみの機会があるように努めております。防災訓練、職員研修等に関しては併設施設や同法人施設と協同し、積極的に職員の質の向上に努めております。事業所内では特に認知症ケアの知識や技術の向上に努めており、勉強会や事例検討を毎月開催しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は、母体の特別養護老人ホームに隣接して建てられており、合同での研修や各会議・防災訓練の実施等、日頃から密接な協力関係が築かれている。
- ・事業所の仏壇に利用者が交代で仏飯を供えたり、特別養護老人ホームでの法話会への参加、墓参りや海岸等へのドライブ等、慣れ親しんで来た習慣が途切れることなく続けられるよう取り組んでいる。
- ・法人全体で防災訓練に積極的に取り組み、避難訓練には地域の消防団からの参加がある。事業所も法人の一員として訓練に参加する他、単独の自主訓練も行っている。事業継続計画(BCP)は法人で策定し、適宜見直しもしている。
- ・職員間の人間関係は良好で、利用者各々のペースや気持ちを大切にしたケアに努めている。
- ・管理者は、職員に内外研修の受講を勧め質の向上を図るとともに、休憩時間や有給取得などにも配慮し働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	地域との関わりを大切にすることを理念に掲げ、職員へも周知と共有を図っている。ご利用者や事業所として地域との繋がりを大切にしている。	理念を玄関・リビングに掲示し、各自のネームやパンフレットにも掲載している。理念を各自で確認してケアに繋げており、ミーティング時に理念とケアの振り返りを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご利用者の買い物やドライブ、お墓参りなど、ご利用者の地元や慣れ親しんだところへの外出を支援し、その途中で地域の方々とふれあう機会がある。職員は日頃から地域の方々との関わりを大切にしている。	利用者の地元巡りや墓参りに出かけた際に、出会った知人等と話をすることがある。近隣住民からの野菜の差し入れや避難訓練時の住民への声掛け、高校生の実習受け入れ体制等、機会毎に地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	ご家族からの相談や見学者や実習生などを受け入れた際、認知症の理解やケアの方法など説明している。また市内の地域密着型の事業所で関わりを持ち、地域貢献や職員交流・研修に取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出された意見や要望はミーティングで取り上げサービスの向上に活かしている。	2ヶ月に1回会議を実施し、事業所の状況報告と意見交換を行っている。助言を受けて、ヒヤリハット報告は件数のみから状況も含めるように変更したり、災害時の安否確認方法を検討する等、意見を向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	毎月現状報告を行い、待機者の情報交換を行っている。入退居がある場合や介護保険に関することなど担当の福祉課の方に相談し、ご本人やご家族の望まれる生活を考慮している。	運営推進会議時の意見交換や出向いての相談等で、市の担当者とは連携を図っている。市の研修会に参加し、情報収集にも努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事業所内及び法人研修会にて定期的に理解を深めている。基本的には施錠はしないようにしており、職員体制が手薄になる時のみ玄関の施錠をしている。また、2ヶ月に1回事業所内で実情を話し合い、定期的に併設施設と合同で委員会を実施している。	指針は事業所で作成している。法人で委員会を2ヶ月に1回実施し、研修会は法人または事業所で年2回実施している。職員間で原則として玄関の施錠はしないことを再確認し、外に出たい利用者には散歩に同行する等、行動を制限しないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	事業所内及び法人研修会にて定期的に理解を深めている。また、認知症の方の思いが理解できるように特に力を入れている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	事業所内及び法人研修会にて定期的に理解を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時に生活やケアの方針、取り組みについてを説明し、要望や気になることを聞き取りしている。改定があった時は都度必要な変更を行い、文書にて説明をし同意をもらっている。退居時についても意見を聞いたり助言をしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議やけやき便り、面会時などで現状を報告し意見や要望など伺っている。また、毎年アンケートを実施している。出された意見や要望は、サービスに反映するようにしている。</p>	<p>日常会話での本人の要望を受けて、自宅訪問や墓参りなどには職員が同行している。家族にはアンケートや運営推進会議・面会時に要望を聞き、個々に対応しており、危険防止目的のGPS装着について市の了解を得た例もある。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月代表者へ現状報告や意見を述べる会議がある。事業所では気づきや感じたことをノートに書くようにしてミーティングで取り上げ検討し、サービスに繋げている。</p>	<p>ミーティングで職員の意見を聞く機会を設けており、必要時は法人の運営委員会等に諮って反映できるように努めている。台所のリフォームや特別養護老人ホームの法話会への参加など、実施している。個別相談は管理者が受けて対応している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>職員の休憩時間をはっきり決め、時間外労働をしないように行事などがある日には勤務体制を調整している。また、休みの希望や有休など可能な限り応えるように勤務表を作成している。やむなく超過勤務をする場合には手当をつけている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部の研修の参加や外部講師を招いての法人勉強会を開催している。事業所内でも毎月勉強会を行い、研修記録を記入して力量を把握している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市内の地域密着型事業所間で、顔の見える関係作りのために交流会や職員研修会を開催したり地域貢献の為の活動に取り組んでいる。また法人内でも現状や事例を報告する機会がある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>事前に面接に出向いてご本人や担当職員と話をしたり、見学などして頂き、ご本人、ご家族にここでの暮らしぶりを見てもらう機会を作っている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>契約時や事前に不安なことや要望など聞いている。在宅での状況や以前の介護保険サービス状況について尋ね、事業所としてどのように対応できるか話し合い、ケアプランに反映している。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご本人・ご家族の要望や必要があるケースでは他のサービス（デイケア）などの利用も可能であることを伝えている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>食事の準備や片付け、洗濯物など生活のなかでできる役割を持ってもらい、花壇の手入れや野菜作りなど職員・ご利用者と共に取り組み、お互いに支え合う関係を意識している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やけやき便りにて生活状況を伝えている。必要に応じて文書や電話で連絡し、近況報告や要望を伺っている。オンライン面会も説明文書を用いすすめている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物やドライブの時は、ご利用者の地元を通ったり、墓参りなど支援している。馴染みの人や思い出を会話に取り入れ忘れないように支援している。	家族との面会での交流や事業所から「けやきだより」を毎月送付して近況を報告し関係が途切れないように取り組んでいる。自宅での生活習慣等を参考に、利用者の地元や馴染みの場所に職員が同行している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶を入れ合ったりお互い手を差し伸べたりと仲の良いご利用者同士がお互いに助け合いやすい座席の配置などを考慮している。また、ご利用者同士の会話や関係が繋がるように職員が気配りしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他関係職種と連携のもと相談や助言をして退居後の不安に寄り添うようにしている。また、退居された方のご家族へご本人の写真を配布している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃のご利用者の表情や言動などの様子、またご家族からの情報を基にして、思いや意向をくみ取るように努めている。	日常会話や日頃の状況から本人の思いを把握できるように努めている。困難な場合は、家族や入居前の利用サービス職員の情報を参考に本人の反応や表情等で推測して支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前や入居時にシートを用いて聞き取りをしている。また、ご家族の面会時やご本人の語りの中で察したり伺うなどしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の意向の確認や表情や気分の観察を常に心掛け、主体的に過ごせることを支援している。その人のできることを、できそうなことを把握し、支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送り・気づきノートなどの記録やチェック表を基にご本人、ご家族、職員から意見を収集したり話し合いをして、ご本人の望む生活を支えることを心掛けてケアプランを作成している。基本3ヵ月毎にモニタリングを行い、計画の見直しや修正を行っている。	担当者会議を家族・管理者・ケアマネジャー・職員で実施し、ミーティング時の職員の意見を入れて介護計画を作成している。モニタリングを3ヶ月毎に実施し、状況変化等の必要時及び1年毎に見直しを行い、現状に合った介護計画にしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り・気づきノートをホールへ置きいつでも記入、閲覧できるようにしている。ノートを基にミーティングや引継ぎ時の申し送りで取り上げ情報の共有を図っている。ケース記録に記入、必要に応じてプランの見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じて、買い物や通院の代行支援などを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	希望に沿い、感染対策を講じながらご家族との墓参りや法事への参加などの外出を支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の意向を確認しながら、事業所の協力医や以前からのかかりつけ医と連携をとり、通院や往診など必要なときに、適切に医療が受けられるよう支援している。	契約時にかかりつけ医の希望を確認し、協力医療機関の往診を月1回利用している。協力医療機関とは24時間医療連携体制を築き、母体の特別養護老人ホームとの協力体制、事業所の看護師配置と併せて適切な医療を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>専属・併設施設の看護師と連携し健康面の相談をしている。また、併設施設の看護師へご利用者の情報を提供し、緊急の場合など夜間も含めいつでも相談できる体制にある。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は情報提供を行っている。病院担当者と連絡をとり情報交換や相談をしている。母体の病院との報告会や交流会、市が開催する専門職の研修会など病院関係者と関係を築ける場もあり、連絡体制も構築されている</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居の際にご家族へ重度化対応・終末期ケア対応指針を説明して理解を得ている。又、アンケートを取り、ご本人、ご家族の希望を踏まえて看護師や主治医、協力医の指導のもと希望に添えるよう努力している。</p>	<p>契約時に重度化等の場合の対応について選択肢を含めて説明し、同意書をもっている。重度化等の場合、医師から家族に病状を説明し意向を確認している。家族の意向に沿って最大限の支援に取り組んでおり、最終的には入院の選択例が多い。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時や応急手当が必要な場合は、専属の看護師、不在時は併設施設の看護師に協力をもらい昼夜とも対応できるようマニュアルを整備している。事業所勉強会でも年1回以上手順の確認を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>地震や土砂災害を含めた防災・避難訓練や消火訓練を併設の事業所や地域の消防団などと連携し実施している。全国防災訓練（水害）にも参加している。</p>	<p>法人で夜想定火災避難訓練を消防署立ち合いで1回、昼想定で地震避難訓練を1回実施し、消防団員の参加が多数ある。市実施の全国防災訓練に法人として参加し、事業所の自主訓練で夜想定火災避難訓練を年1回実施している。事業継続計画（BCP）は法人で策定している。備蓄は法人で3日分の水・食料及び発電機を、事業所にも水1日分、食料1週間分及び小型発電機・カセット・コンロがある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者一人ひとりの生活歴や認知症の程度、日頃の様子から読み取れる情報をミーティングなどで話し合い、プライドを傷つけない関わり方に努めている。	2ヶ月毎の事例検討及び研修で、人格の尊重とプライバシーの確保への理解を深めている。本人の選択を支援し自主性を尊重したケアに努め、排泄・入浴介助は羞恥心にも配慮した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症ケアの勉強会と合わせて自己決定の重要性の理解に努め、日頃の声掛けを本人主体になるように心掛けている。外出や入浴、活動などはもちろん居場所や過ごし方など希望を伺いながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝・午睡などそれぞれの時間で行動しており、普段の過ごし方や食事、入浴もその人のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	季節毎に衣類をタンスに準備して、自分で選んでもらい、できない方は職員と共に選び支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の意向に沿い、食事作りや片付けを一緒に行っている。また、パン作りやバイキング、外で食事をするなど企画し楽しみとなるよう取り組んでいる。	利用者の好みも考慮した献立で個々に応じた食事形態で提供し、利用者も一緒に下ごしらえや茶わん洗い等をしている。誕生日や行事食・バイキングやテラスでの食事・パン作り等、楽しんでもらえるようしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	旬の食材を用い、野菜とタンパク質を多く使った食事作りをしている。食事形態や量、好みにも配慮している。水分は飲み物の種類や温度などにも配慮している。摂取量が少ない方へはチェック表を用いて管理し個々に合わせた工夫をしている。また、天気の良い時はベランダや庭でお茶会をするなど雰囲気も大事にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、できる方へは声掛けして口腔ケアを促し、自力で難しい方は義歯洗浄、仕上げ磨き、うがいなどできない部分を個別に支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録を基に入居者個々の習慣や機能に応じた排泄援助を行っている。可能な限りトイレで排泄できるように支援している。おむつ使用の方も漏れのないように種類や交換タイミングの調整を行っている。	チェック表で把握した個々の排泄パターンで声掛けし、全員日中はトイレでの排泄を支援している。2人介助も実施し、トイレでの排泄支援により残存能力維持を図っている。夜間は、身体状況等によりポータブルトイレを使用する利用者もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	10時のお茶の時はおやつに芋を使うなど食事に食物繊維を多く取り入れ、水分も多く摂ってもらえるよう工夫している。また、医師や看護師と相談のもと下剤の調整をしたり、便秘対応をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日は決めているがご本人の希望や気分に合わせて柔軟に対応している。できる限り一人ひとりのペースでゆっくり入れるように努めている。湯加減も好みに合わせている。	週3回午後の入浴を支援しており、全員浴槽利用である。希望で同性介助にも対応し、嫌がる場合は、声掛けを工夫したり、日を変えて入っている。入浴剤は使用せず、冬はボンタン湯も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床、就寝、午睡などその都度ご本人に伺いながら希望に添った対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理のファイルに一人ひとりの薬の説明書を綴っており、全職員がいつでも見れるようにしている。毎日バイタルチェックを行い、必要に応じ回数を増やし記録をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で洗濯や食事作り、畑や庭の花の手入れなど可能なことを一緒に行っている。また、楽しみごととして毎日レクリエーションを行い、行事やドライブなども都度企画している。テレビ視聴も録画機を用いて好みの番組調整をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>その日の希望での外出は職員体制によってできないことが多いが日常の散歩や定期的なドライブ・買い物等外出支援を実施している。</p>	<p>天候の良い日は敷地内の散歩をしている。年間計画を作成し、初詣や花見・墓参り・ドライブ等、利用者の希望や個別支援の外出を含めて実施し、できるだけ戸外に出かけられるように取り組んでいる。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>一社会人としてお金を所持することの大切さを理解し希望や能力に応じてお金の所持を支援している。所持が困難な方は預り金という形で金庫で管理している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>ご本人やご家族の希望に沿い、電話やリモート面会を都度支援している。職員の支援をもらいながら携帯電話を所持している方もいる。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>老人車や歩行器、車椅子の方の移動のしやすさや、過ごしやすい室温や湿度、換気に配慮している。また、庭に季節の花を植え、仏壇や玄関、ホールには季節の花や飾り付けをして水槽で金魚を飼っている。食事やお茶の時は音楽を流している。</p>	<p>ホールは空気清浄機や加湿器・エアコンで適度な室内環境に調節し、車いす等の動線も確保している。ガラスに遮光テープを貼ったり、換気は窓を開けて行っている。季節の花や作品を飾り、食事の時は音楽を流している。利用者がくつろげるようテレビ前にソファコーナーを設けている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホール内の食卓では席を決めており、リラックススペースにはソファを置き、各々好きなところで仲の良い人同士自由に話をしたり、テレビを観たり、本や新聞を読んだり、昼寝などされている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅よりテレビや家具や身のまわりのものを持ち込んで頂いている。又、各部屋にボードを設置してご本人の写真や作品を飾って不安なく暮らせるように支援している。</p>	<p>居室には、ベッドやたんす・押入れ・いす・寝具・エアコンが備えてある。本人は自宅で使い慣れた寝具や必要に応じて、テレビ・3段ボックス・遺影・位牌・写真・本等を持ち込み、安心して過ごせるようにしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ホールやトイレには手すりを取り付け、能力に応じてベッドに移動バーをつけたり、高さを調節したり一人で立ち上がりたり移動しやすいように工夫している。また、トイレや自分の物や部屋がどれか困らないように表示をしている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない